

【世界トップシェア】日本金属の黒加飾ステンレス鋼「Fine Black」が 日産スカイライン特別仕様車「400R」外装モールに採用

日本金属株式会社（本社：東京都港区、取締役社長 下川康志、以下「日本金属」、証券コード：5491）は、メタリック調の黒加飾ステンレス鋼「Fine Black^{※1}」（商標登録申請中）が、2020年9月14日に全国一斉発売した日産自動車のスカイライン特別仕様車「400R」の外装モールに採用されたことをお知らせします。なお、当車両は、日本、北米、メキシコをはじめ、広く世界中で販売されます。



黒加飾ステンレス鋼「Fine Black」が日産自動車のスカイライン特別仕様車「400R」に採用 写真提供：日産自動車

昨今、自動車外装モールは、従来の金属光沢「BA5^{※2}」、サテン調「PW^{※3}」に加え、多様化する色合いやデザインの中で、特にメタリック感のある黒色のニーズが高まっておりますが、既に採用されている塗装やテープ貼りなどではメタリック感が表現できませんでした。そこで当社は、そのニーズに応えるべく、ステンレス電解研磨専門企業の株式会社東陽理化学研究所（本社：新潟県西蒲原郡弥彦村、代表取締役社長 杉田俊一）とメタリック感と深みのある黒を実現したステンレス鋼「Fine Black」仕上を共同開発しました。

この「Fine Black」仕上は、ステンレス鋼の表面に極めて薄い透明な酸化皮膜を生成させ、[酸化皮膜の表面で反射する光]と[金属と酸化被膜の界面で反射する光]の2つの光の干渉現象により発色させるステンレス鋼の代表的なカラー発色技術であるインコ法を基本としています。

今回、日産スカイライン特別仕様車「400R」に採用された理由は、「メタリック感と深みある黒の実現と材料の安定供給、他の加飾と比較したコストダウンの実現」です。また、発色に最適な表面を形成する圧延とその表面処理工程および条件の確立と、色彩が安定する発色条件および特殊な加飾液を開発したことにより、インコ法の課題であった色斑を抑制しメタリック感と深みある黒を安定して発色させる量産体制の確立にいたりました。また、新たな硬膜処理（ハードニング）を施すことで十分な耐候性・耐磨耗性などの物性を向上させました。

さらに、「Fine Black」仕上は加工においても、従来の金属光沢「BA5」仕上やサテン調「PW」仕上と同様にコイル（帯鋼）からの連続加工が可能であり、成形やプレス加工の加工金型も「BA5」「PW」仕上と共有化できるなど、塗装やテープ貼りなどで行う加飾と比較し、加工コストおよび初期コストを削減可能です。

日本金属は、外装モール用材として今後さらなるトレンドとなるべく、「Fine Black」の国内および海外自動車メーカーへの展開を積極的に推進してまいります。

- ※1) 「Fine Black」仕上 (FB) : 黒加飾・・・メタリック感と深みある黒 ※「Fine Black」商標登録申請中
- ※2) 「BA5」仕上 : 光輝・・・BA仕上を更に光沢を高めた最高のBA
- ※3) 「PW」仕上 : サテン調(アルミ調)・・・アルミと同じ色調をステンレスで実現

量産仕様

- 1) 製造 : NK-430MA FB(下地 BA5) 厚み 0.3~0.5mm×巾 600mm
- 2) 販売目標 : 40ト/月

●日本金属と当社製自動車外装モール用材について

日本金属は、冷間圧延ステンレス鋼帯、みがき特殊帯鋼をはじめ、極薄電磁鋼帯、マグネシウム合金等の精密圧延・加工メーカーとして自動車、電子部品、医療、電池など様々な分野に対して、オーダーメイド受注生産で付加価値の高い商品を提供しています。

特に冷間圧延ステンレス鋼帯の自動車外装モール用材において、世界でトップシェアを誇り、日本市場ではシェア95%（当社調べ）を占めております。一般的な金属光沢のあるBA仕上（冷間圧延後の光輝熱処理による表面仕上）に加え当社の独自技術により更に光沢を高めた「BA5」仕上、落ち着いた風合いのサテン調（アルミ調）を実現した「PW」仕上については、国内・海外自動車メーカー各社に採用されています。

*** 報道に関するお問い合わせ先 ***

日本金属株式会社 総務部

TEL : 03-5765-8100

*** 自動車外装モール用材に関するお問い合わせ先 ***

日本金属株式会社 営業開発部

TEL : 03-5765-8110